

狭山ニュータウン地区活性化シンポジウム 開催報告

1 シンポジウムの概要

目 的	<p>狭山ニュータウン地区は、大阪狭山市の住宅都市としてのイメージづくりに大きな役割を果たしてきた。しかし、近年の少子高齢化、核家族化、人口減少の進展に伴い、空き家や空き地の増加、買物弱者への対応など様々な課題に直面している。</p> <p>地区の資源や魅力等を踏まえて、まちの将来像やその実現に向けた取組み等を示した「狭山ニュータウン地区活性化指針」を策定するにあたり、住民の皆さんと意見交換を行うために本シンポジウムを開催した。</p>
日 時	平成 30 (2018) 年 12 月 1 日 (土) 午前 10 時 ~ 11 時 45 分
場 所	大阪狭山市立コミュニティセンター 4 階大会議室
参加者	約 70 名 (事務局 9 名を含む)
内 容	<p>1 基調講演 「狭山ニュータウン地区の活性化に向けて」 上甫木昭春 教授 (大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科) 狭山ニュータウン地区活性化指針策定委員会で委員長を務めている上甫木先生から地区の活性化に向けて講演があった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>人口減少社会と協働のまちづくりが背景にある 狭山ニュータウン地区活性化指針策定の時代背景として、少子高齢社会に加えて人口減少時代を迎えている。</p> <p>まちづくりの活動は、公害反対などの対抗型の活動から、市民参画の取組みを経て、行政と市民が共に取り組む協働型の活動に移行している。</p> <p>魅力を備える一方で、市全体よりも高齢化が進み課題がある 狭山ニュータウンは市全体と比べると高齢化が進んでいる。若い世代の定住意向は市全体を下回っている。</p> <p>子育て支援、日常生活の支援、緑地の活用と再生、都市空間の維持更新、地域の安全・安心といった5つの視点で魅力と課題が整理できる。</p> <p>活性化に向けた取組みでは多様な主体の連携が必要になる 狭山ニュータウン地区活性化指針(案)では、将来像として「集い交流する</p>

まち」「健やかに活躍できるまち」「らしさを発信し続けるまち」を掲げており、その実現に向けた取組みを上げている。

モデルとなる取組みにおいて多様な主体の連携が必要である。それらの取組みを通じて、プラットフォームづくりにつなげていくことが考えられる。

地域の健康は、環境（基盤環境の保全と創出）、コミュニティ・社会（人的連携の創出）、地域経済（コミュニティビジネスの創出）の3要素で成り立っている。活性化指針に基づく総合的なマネジメントによって、「健康」な狭山ニュータウンをめざして欲しい。

2 パネルディスカッション

上楠木先生をコーディネーターとして、5名のまちづくり実践者によるパネルディスカッションがあった。会場から質問を受けて、活動拠点の確保、コミュニティ活動の活性化、活性化に向けた取組みの継続をテーマとして話し合った。

コーディネーター 上楠木昭春教授

パネリスト 小野達也教授（大阪府立大学 人間社会システム科学研究科）

関谷大志朗さん（咲く南花台（南花台スマートエイジング・シティ団地再生プロジェクト）コーディネーター、一般社団法人カンデ理事）

上岡文子さん（株式会社 DAN 計画研究所主任研究員）

橋本巖さん（大阪狭山市狭山ニュータウン地区活性化指針策定委員会委員）



(1)活動拠点についてのポイント

上岡さん 柔軟に運営されたスペースを提供する

私がまちづくり活動に参加している富田林市の寺内町も高齢化率は 30%を

超えており、活動の維持が課題だった。ニュータウンと違って転入者が入り難い地域だが、新たに陶芸家の工房ができて成功し、人が人を呼んで新しいお店が増えていった。

使われていない酒蔵をイベントスペースとして活用したところ、音楽祭やマルシェ等の活動が広がっていった。拠点づくりのポイントとして、ルールを厳しくしないことがあり、柔軟に運営されたスペースを提供すると、やりたい人が出てくる。場所を提供しても、地域の人たちが“自分たちがやりたいこと”を明確にしておかないと活動は生まれてこない。

関谷さん 運営ルールをみんなでつくる、段階的にスペースを広げる

南花台では、まちの真ん中のショッピングセンターの空きテナントを活動拠点としている。無料の駐車場があり、買い物に来た人が立ち寄ることができる。運営ルールをみんなでつくったこと、月1回地域の人たちと話し合っ、段階的にスペースを広げてきたことがよかった。みんなでまちづくりの活動を始めると、空き店舗が埋まっていった。

まちの特徴やポテンシャルを意識して、活動に活かす必要がある。小さな拠点がいくつあっても良い。

橋本さん 空き家を活用できるように不動産事業者と連携を

狭山ニュータウンの自治会館はよく利用されており、行事で100%近く埋まっている。中でも介護予防の百歳体操は人気があり、他の自治会館を使うこともある。地域コミュニティの活動拠点として空き家を活用できるように、不動産事業者と連携できるとよい。

小野先生 一緒に地域を創りたいという学生のアイデアを活かして

ニュータウンは一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えており、孤立化を防ぐ居場所が必要である。いろんな所に身近な拠点があるとよい。居場所の一例として子ども食堂が広がっており、福祉施設の空き時間を活用する、地域住民に加えて大学生が学習支援で参加するなど、人材や拠点などの資源を活かして、新しい人のつながりができている。

余った食料を捨てないで持ち寄り、食べ物に困っている人や福祉施設などに寄付する取組み（フードドライブ）が広がっている。農家などの生産者や八百屋さんなどの事業者が参加する可能性がある。

府立大学のボランティア活動センターでは、学生が地域のお祭りに関わっている。単なる労働力提供ではなく、一緒に地域を創りたいという学生のアイデアを活かして欲しい。

(2) コミュニティ活動の活性化について

関谷さん “こんなコトをやりたい” といった声上がることを待つ

活動を始めた段階では、参加者からは要望が多かった。コーディネーターとして、地域住民自身がやりたいことを引き出してプロジェクトとして立ち上げていった。まずは、活動拠点をみんなで創ることから始めた。

地域の人たちが、「まずはやってみよう」と言ってくれる段階になった。具体的な取組みを始めると新しい人が参加する。まずは、自分たちができることから、手の届くことから始めることがよい。

コーディネーターとして、住民から“こんなコトをやりたい” といった声上がることを待っている。ママ友など、新たな活動をしたい人がいるが、

場所がないといった声がある。

上岡さん コミュニティ活動に事業者の参加を

寺内町の自治会メンバーは若返っている。店舗などの事業者も自治会員として位置づけられて、自治会に受け入れている。住民だけで構成するとメンバーが固定化されてしまう。

狭山ニュータウンも 50 年間のコミュニティ活動の歴史がある。活性化に向けて、事業者に参加してもらえばよい。

橋本さん 防災や防犯は自治会に入っていない人への働きかけが必要

南中学校区円卓会議は「みんなのまちはみんなで創ろう」と、10 年前に発足した。防災や防犯の取組みでは、自治会に入っていない人への働きかけが必要である。自治会の活性化は円卓会議の活性化につながる。

大野台 4 丁目は高齢化率 44% であるが、老人会の活動が盛んである。お互いに誘い合いながら活動しており、自治会活動の活発化につながっている。

小野先生 いろいろな地域活動と自治会を結びつける

都市部はどこでも自治会の加入率は下がっており、堺市では 6 割を切っている。暮らしの支え合いの対象者は自治会に入っていないことが多い。高齢者だけでなく、障がい者や子育て層、外国人など全ての人を対象とした地域共生社会づくり、地域包括ケアシステムの構築が求められている。

子ども会や老人会への参加が自治会加入のきっかけとなる。自治会単独でなく、いろいろな地域活動と自治会を結びつけると活動が活発化する。

(3) 活性化に向けた取組みの継続について

上岡さん 目標を共有して一人で背負い込まずに手伝ってもらえる体制に

子育て後に、まちづくり活動のメンバーとして戻ることができた。メンバーがよくて面白いことができそうだったといった期待感がある。60 代、70 代の子育て先輩から話を聞けることもありがたい。

取組みの継続のために、メンバーの間で目標を共有している。一人で背負い込まずに、手伝ってもらえる体制にしている。

関谷さん 買い物支援などの生活支援のプロジェクトチームをつくって検討

庭の草引きや電球替えなどの有償ボランティアを行っており、お金を払った方が受ける側は頼みやすい、活動継続のために有償にしよう、という声があった。

買い物支援などの生活支援のプロジェクトチームをつくって検討している。公園の管理について、市から委託を受けることを検討している。

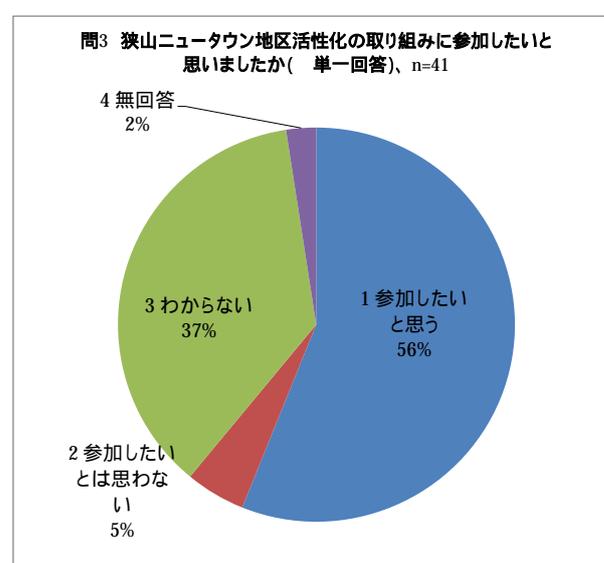
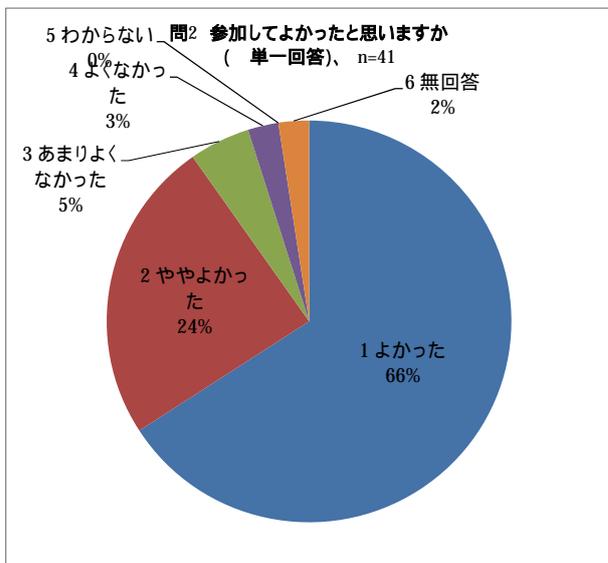
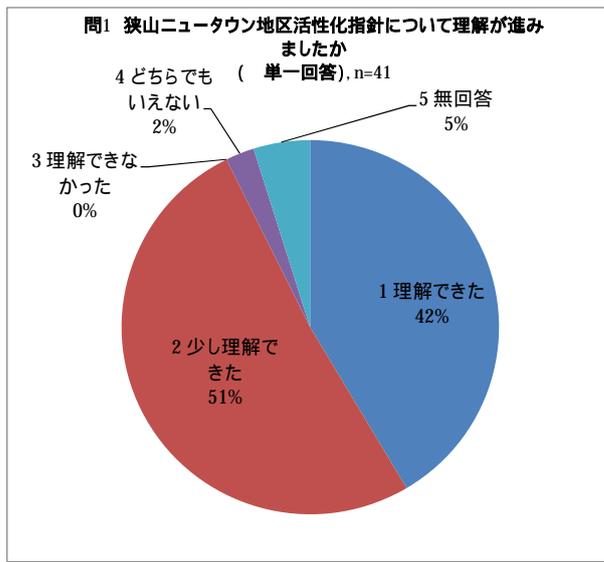
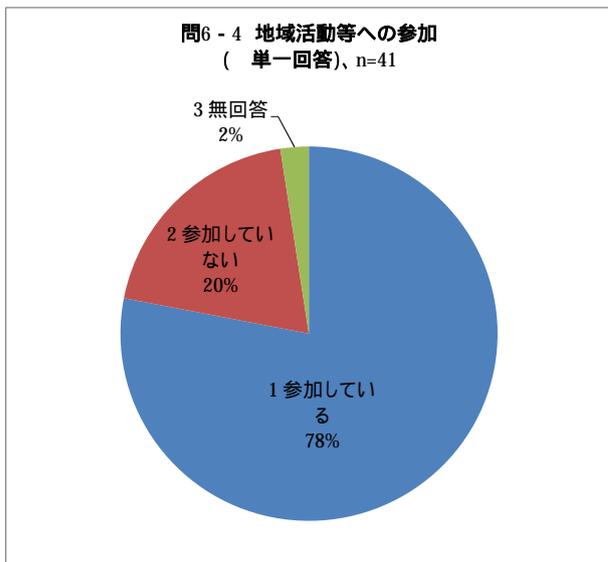
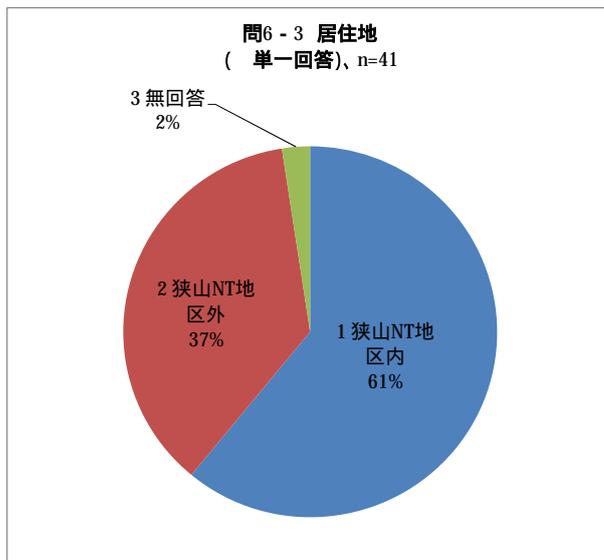
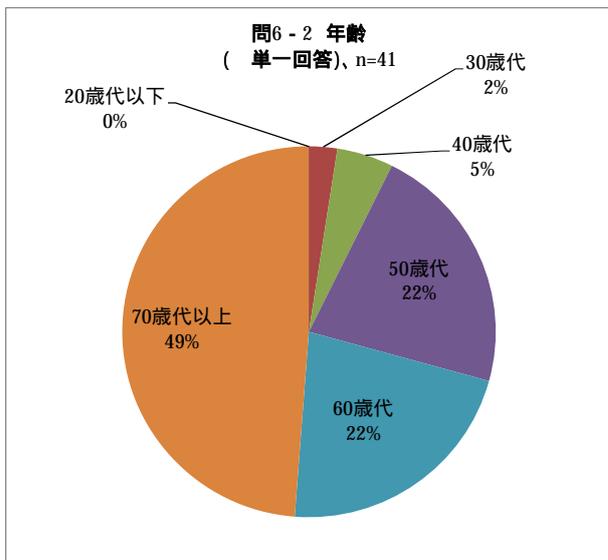
小野先生 自立（自律）に向けて被支援力が大切

自立（自律）の考え方が変わってきている。自分でできないことを手伝ってもらえる力、被支援力が大切である（上手に手伝ってもらえる力）。

上南木先生

シンポジウムで出された意見について、指針の策定に活かしていきたい。

2 参加者アンケート結果（抜粋） 回答者数41名



問5 活性化に対する意見

ポスト近大に向けた人口増加策を考えてもらいたい。狭山 NT 地区のみ活性化指針を作成するのか？他の地区は買い物弱者、道路問題が山積み。他市も同様な活性化策で、あまり効果になっていない。抜本的な（スクラップアンドビルト、コンパクトシティー等）対策が必要。

現在存在する農地や陶器山、天野街道など自然を維持させる事が必要と思う。NT は坂が多く、高齢者の方々に対する、移動手段が重要と思われる（買い物難民含め）。NT の空き家を活用し、二世帯、多世代の近居、同居の支援策が必要ではないか？パネリストの方々の具体的事例が参考になりました。

オールドタウンを再生活活性化する第1歩として、何か目に見えるものをパイロット事業として打ち出すことにより、NT がいい形になるという期待を持たせることからスタートする。まずは行政が先頭に立って牽引していくことが望まれる。

若い世代が定住する魅力あるまちにするためには住民・地域組織・行政がそれぞれ任務を果たす必要がある。例えば、住民：自分の回りを掃除し、まちをきれいにする。自治会：若い世代ともっと接触し、意見・要望をひろい上げる。行政：住宅費に補助を出す。税制面で配慮する。

実現に向けて地域住民の参画および行動推進を促して行くことが大切ではないか！行政と一般住民とのコミュニケーションを核に進める！

狭山ニュータウンにも関谷さん上岡さんの様な、まちづくりにとっての風の人となる存在が必要だと思います。住民の意見をすいあげて行動へと移していくボトムアップの形は場所をつくるだけでは無理で、力あるコーディネーターが必要です。そこからまちのプロデューサを育成していくことが大切だと思います。

人口は減少しても高齢化世代は新たな交通問題、免許証返上による問題に直面している。この NT は生活しやすい規模だが坂が多いのが特徴である。バス交通や自転車を含め新たな交通手段と道路整備が必要ではないのか（要検討）。周辺の農地を残す課題はまちづくりに不可欠。

市広報にあります狭山市の文化的魅力を活かした活性化に関する意見として「SUIKO プロジェクト」まとめております。ご覧いただいたら幸いです。文教地区に魅力を感じ、引っ越して来ました。パチンコ屋、風俗店のない街を続けて欲しいです。近大跡地の活用をきっかけで活性化できると思います。

最寄駅から遠い（バスで 15～20 分かかる）なかで若い人の通勤時間に課題があると思う。そのような中でニュータウンの魅力をどのようにしていくか課題と思う。